

ET技術を活用した乳用後継牛の効率的な生産と若狭牛の増産技術の確立(H28~30)

現状

乳用牛の高能力化が進み
受胎率は低下傾向



乳用後継牛が不足

酪農家は後継牛の生産を優先するため和牛受精卵移植(ET)を実施する牛が少ない



若狭子牛の生産頭数が増加しない

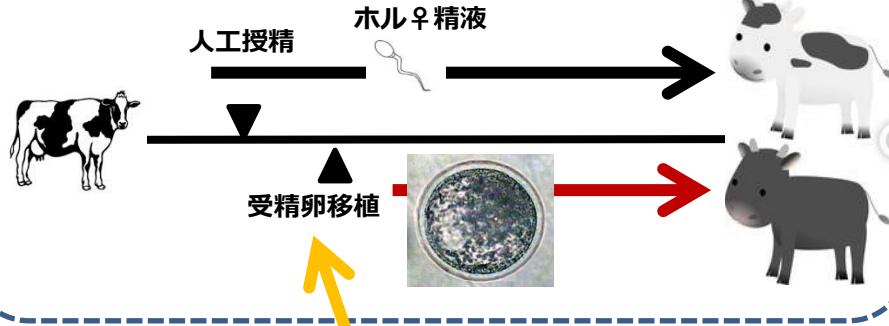
目標

- ・効率的な乳用後継牛の生産
- ・和牛ETの利用拡大

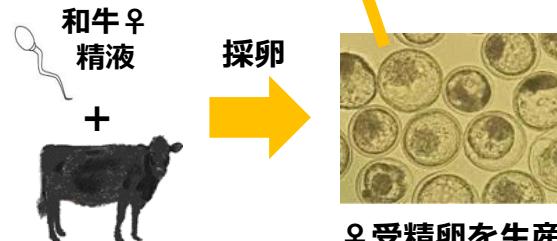
試験内容

福井県版追い移植の開発

酪農家



嶺南牧場



研究目標

- ・受胎率の向上37.5%→60.0%
- ・双子妊娠時のマニュアル作成

・ホルキ精液は受胎率が低く、追い移植で向上

・ホルキの効率的生産のための移植時期を検討

・♀受精卵を使用することでリスク(難産・フリーマーチン)の危険性が減少

期待される成果

- ・後継牛の生産に必要な親牛の頭数
450頭→350頭
- ・和牛子牛の生産頭数
150頭→350頭
- ・空胎日数の短縮
190日→153日

- ・若狭子牛の販売額向上
12,000万円／年
- ・繁殖成績改善による経営安定
6,000万円／年

